



## 広島ドラゴンフライズ B.LEAGUE初優勝

広島ドラゴンフライズは2023-24シーズン、ワイルドカード上位でクラブ2度目のチャンピオンシップ(CS)に出場。三遠、名古屋Dに勝利して進出した決勝で、前年王者の琉球に2勝1敗で勝利し、B.LEAGUE初優勝を達成しました。

優勝を決めた日のエディオンピーススイング広島でのパブリックビューイングに7700名、優勝後のマツダスタジアムでの報告会に6000名の皆さまにお集まりいただきました。「スポーツ王国・広島」のスポーツへの大きな愛情を改めて感じ、広島に存在するプロスポーツクラブとして誇りを感じる素晴らしいシーズンになりました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

連覇を目指す2024-25シーズンは10月に開幕いたします。さらなる応援をお願いいたします。

広島ドラゴンフライズ

### ひろしまストリート陸上プラス

令和6年5月4日(土・祝)、通常の開催日程に戻った「2024ひろしまフラワーフェスティバル」で、いつもの平和記念公園前の平和大通り特設トラックとセットのもと、「ひろしまストリート陸上プラス」を開催!

コロナ禍の影響、昨年のG7広島サミットによる6月開催を挟んで、ようやく定位置に戻ってまいりました。  
(詳細は2ページへ掲載)



## “ひろしまストリート陸上プラス”! ひろしまフラワーの定位置に戻ってきたぞ!!

# GWの定番に大歓声でお出迎え

今年もオリンピックトップアスリートの皆さんが会場を沸かせてくれました。陸上競技からはこの5人。ご存じ地元広島出身、木村文子さん(ロンドン、東京五輪女子100m障害)、昨年が続いて木村さんの友人代表の高橋萌木子さん(ロンドン五輪女子400mリレー)、初参加で友人代表(笑)の金井大旺さん(東京五輪男子110m障害:ミズノブランドアンバサダー)、地元から山本智貴さん(棒高跳びの広島県記録保持者)、菅颯一郎さん(広島県高校記録保持者)。体操競技はトランポリンの永田信弥さん(トランポリン世界選手権代表)。

まずは小学5・6年男女による棒高跳びのデモンストレーションから。すっごく緊張しましたとの感想でしたが、この種目はただごとではないですね。難しいと思います。なのにあんなぶっつい棒を操るなんて、ですね。自己ベストが出たそうですよ。

さあさあ、時間は14時。司会は、RCC一柳アナとフリーの大本アナ。名コンビの進行で“定番”の開幕です。これに木村文子さんの解説とちゃちゃも加わって楽しい時が流れていきます。

選手の紹介後、棒高跳びのデモに入ります。恥をかかないよう頑張る、と地元山本選手。かなり緊張されながらも、かっこいい顔で飛べたとか。続いて地元菅選手。こんなに近くの観客は初めてと、愛嬌ジャンプで赤旗も。2回目は見事でしたが足が吊りかけちゃったらしいです。トランポリン永田選手も初めて近くで見ると迫力を感じられていました。(ご本人は棒なしで飛びまくられていますけど…)



続いて、本日の目玉の一つ、トランポリンです。解説は山本日本体操協会トランポリン強化本部長。最初のデモは、県立大門高校1年、木村唯愛選手の演技です。あれれ〜、ゲッ、すごいぞこれは。びっくりの演技にそりゃ、お客さんも大歓声をくださいました。木村選手は、外で行うのは珍しい。しかも嬉しいことにこんな近くにたくさんのお客さんなんて。と。10種目連続技で姿勢をきれいに整えるのはとても難しいのです。高さや美しさで、かかえ、えび、開脚などの素晴らしい演技でした。

続いて、いよいよ永田選手の登場です。ひざジャンプ、おしりジャンプ、おなかジャンプ、背中ジャンプ、空を眺めてジャンプ、背中技の連続、2回・3回のすばらしいひねり、10種目連続技、とにかく高いです。周りのビルを超えます。そしてきれいな。大人数の観客の皆さんも口を開けて見るしかない、驚きと楽しさを満喫って感じてました。圧巻。

さて、口をぽか〜んと開けたまま、次の競技へ。

県内の100mランキング上位の小学6年生男女による50mスプリント。平たく言うと50m競走。さすが県内屈指の早さを誇る小学生。男子で6.91秒、女子で7.23秒ですかね。このレース上位男女各2名が、このあと、オリンピックとの対決です。



ストリート陸上も1時間を経過しました。5月初旬ですがGWは例外も少なくやっぱり暑いですね。水分を十分に摂りながら次に入りましょう。これも目玉。金井選手の登場です。周囲からはハードルの高さにもちょっと驚きの声。こんなに近くで見るとはなかなかないです。さらに、金井選手のデモが始まると、かっこいいという声聞こえましたね。木村文子さんからは、自身も参考にするほどのかっこいいフォームという声をいただきました。2台、3台と越えていく姿に、もう1回見たい〜との歓声。小学生の男の子が、興奮したって感じで、すっごく早い、とっても良かったと言ってくれました。

ここからの目玉商品は、先ほど走ってくれた小学6年生の男女各2名vsオリンピック!の50mエキシビジョンマッチ。

はじめは、高橋萌木子vs6年女子ハンディキャップなし、大人げなしの真剣勝負です。子供たち2人は、すっごい選手なので一緒に走れることがとてもうれしいとのこと。でもってスタアトお〜。むむ、いい勝負。あー。てなことで、高橋さん、私負けました???ん?という表情。タイムはほぼ同じのようでしたが、1位は小学生に。こんな体験はとても自信になりますね。で私の感想は、高橋さん、子供のモチベーションと自信を持たせるの上手くて最高ですね。です。

さて、次は男子、金井大旺vs6年男子!こちらも真剣勝負。よおいどん! あっ、スピード出ますね。あっという間に。金井選手6.66秒、続いて6.8秒、6.9秒という凄レース。男子2人はそれぞれ、新記録出てよかった〜。自己ベストです。よかったよかった。表現は違いますが2人とも自身の最高が出てほんとによかった。金井選手からは、このスピード感を持ってこれからも自分を信じて取り組んでね。伸びていくよという言葉いただきました。自信付きますよね。

時間も押し迫ってきました。先ほどの大レースの余韻がある中、ゲストアスリートの皆さんにはステージに上がっていただきます。

木村さん: きょうはとっても嬉しかった。陸上とトランポリンを今まで以上に知ってもらうことができました。

高橋さん: 熱気あふれるフェス。子供たちと触れ合えるのはとても良い。

金井さん: 距離が近くとてもいい。魅力を伝えられたと思います。

永田さん: 外で行うことはない競技。たくさんの方に見てもらえて良かったです。

山本さん: 楽しかった。来年も来てみたい。是非リベンジを。

菅さん: たくさんの方の前でできてとても楽しかったです。



このあと、会場に集まってくれた子供たちが、トランポリンと棒高跳び、走り方などを体験しました。棒高跳びは、なかなかできない種目。スタッフの方に手伝ってもらってふわ〜との体験に大喜びですね。トランポリンも、どこでもできるものでもないので大人気の大行列です。まずは歩くことから教えてもらってあとは好き放題(なかなかできないむずかしさ)に動き回ります。小さな子供用も用意いただきました。

スポーツと触れ合って、スポーツを好きになってもらうのはとても大切なこと。なかなか接することのない競技、種目にちょっとでも触れると、興味が沸いて、将来すっごい選手になるかも。そういうきっかけ、チャンスは大事ですね。

参加してくれた小学生の皆さん、選手の皆さん、役員・スタッフの皆さん、そして多くの子供たちをはじめとする観客の皆様、どうもありがとうございました。

また来年も、良い天気のもとでお会いいたしましょう!

# 広島県ゆかりのオリンピック代表内定選手

競技	種目	選手	競技	種目	選手
陸上競技	男子110m障害	高山 峻野	ホッケー	女子	中村 瑛香
	男子走り高跳び	真野 友博			浅井 悠由
	女子100m障害	福部 真子			浦田 果菜
	女子20km競歩	藤井菜々子			尾本 桜子
バスケットボール	女子	山本 麻衣			森 花音
セーリング	混合470級	吉岡 美帆			小早川志穂
アーティスティックスイミング	デュエット	比嘉 もえ	水球	男子	高田 充
7人制ラグビー	男子	奥平 湧	カヌー	スラローム女子C-1	岡崎 遥海

## パリ五輪に挑む、広島ゆかりの16選手

第33回パリ・オリンピックは7月26日に幕を開ける。広島県ゆかりの代表16選手は2021年の前回、東京大会の29人に比べ大幅に減少したものの、連続代表や若い力を加えて健闘を期している。

女子ホッケーの6人は実業団、コカ・コーラレッドスパークス所属選手。DF浅井、MF尾本、FW森選手は東京五輪に続く代表入りで、予選全敗の前の雪辱を目指す。バックアップメンバーとしてGK田中秋桜、MF藤林千子両選手が帯同する。

バスケットボール女子の山本選手(トヨタ自動車)は前回、3人制メンバーだった。小学4年まで広島市安佐南区で育ち、その後愛知県へ。2月の五輪最終予選(ハンガリー)で最優秀選手に選出され、五輪出場の立役者となった。セーリングの吉岡選手(ベネッセ)は広島市西区出身。兵庫・芦屋高から立命館大へ進み女子470級で16年リオ大会5位、東京大会7位。今回は男女混合470級に挑戦する。水球の高田選手(イカイKingfisher74)は広島市宇品中出身。広島水球クラブで競技を始め岡山・関西高、日体大へ。182cmの体格を生かし2017年から24年まで5大会連続で世界選手権に出場している。

アーティスティックスイミング(AS)の比嘉選手(井村ク)は広島市観音中から大阪・四天王寺高で競技に打ち込んでいる。昨夏の世界選手権デュエットで日本勢最年少金メダリストとなった16歳のホープだ。ラグビー7人制男子の奥平選手(三菱重工相模原ダイナポアーズ)は兵庫県出身で尾道高を卒業した。カヌー・スラローム女子カナディアンシングルの岡崎選手(戸田建設)は安芸高田市生まれ。同市吉田中から練習環境を求めて萩商工高、至誠館大(萩市)へ。23年杭州アジア大会で銅メダルを獲得した。

陸上は男女各2人が代表に。女子100m障害の日本記録保持者、福部選手(日本建設工業)は6月の日本選手権(新潟)決勝で優勝。文句なく代表の座をつかんだ。安芸郡府中中-広島皆実高-日体大と進み、地元広島で練習を積む。競歩の藤井選手(エディオン)は2月の日本選手権(神戸)を1時間27分59秒の日本歴代3位記録で制した。北九州市立高出身で前回五輪は13位。世界陸連のランキングを満たした男子110m障害の高山選手(ゼンリン)は2大会連続の出場。広島市中広中-広島工大高-明大出身。走り高跳びの真野選手(九電工)もランキング入りして初の五輪代表。広島市国泰寺中から山陽高、福岡大で競技を続け22年世界選手権で8位入賞した。男子短距離の山本匠真選手(広島国泰寺高-広島大4年)は400mリレーの補欠に選出された。



未来を、ひろげる。

HIROGIN HOLDINGS

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんヒューマンリソース | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんリース  
 ひろぎんエアデザイン | ひろぎんクレジットサービス | ひろぎんITソリューションズ | ひろぎんライフパートナーズ

(2024年7月3日現在) 2407

## 「スーパージュニア選手育成プログラム2024」 トライアル

5月18日(土)・19日(日)に広島会場、5月25日(土)に福山会場で、スーパージュニア選手育成プログラムのトライアルを開催しました。

コロナ禍が明け、多くの小学生たちが参加してくれました。

このトライアルで選考された約40名が、1年間を通じてさまざまなスポーツを体験する「スーパージュニア選手育成プログラム」に参加することができます。

今年のトライアル参加者は、応募があった県内の小学4・5・6年生約260名。

県内各地の小学校から参加者が集まりました。学校での体力テストとは違い、周りは知らない子ばかりで緊張感がありますが、ベストを尽くして頑張してほしいと思います!



開会行事では、主催者を代表して公益財団法人広島県スポーツ協会 堂本ひさ美 強化副委員長が「チャレンジすることはとても大切。トライアルでの結果が良くても悪くても、これから色々なことにチャレンジしてほしい。今日は思いきり力を出して頑張ってください。」とあいさつをしました。

準備運動が終わったら、いよいよ測定開始です。観客席の保護者の方も、カメラを構え真剣な表情で見守ります。

測定種目は、上体起こし・40m走・長座体前屈・立ち幅跳び・ソフトボール投げ・20mシャトルランの6種目です。

学校でも行ったことがある測定なので、測定が終わるたび選手からは「学校では…」 「学校より…」 の声が聞こえます。

泣いても笑っても今日の測定で決まってしまうので、参加者の皆さんが最善の結果を出せることを祈るばかりです。

ソフトボール投げ・20mシャトルランの測定では、毎年良い記録が出ると会場は大盛り上がりです。

今年も体育館の壁に勢いよく当たる遠投があると、選手・保護者・スタッフからは歓声があがり、選手同士で好記録を出した選手へ拍手する姿も見られました。また、シャトルランの測定では、自分自身に追い込みをかけ、最後まで必死に走る姿には、会場全体から拍手が起きました。



今回のトライアルの選考は既に終了し、選考結果は各選手の記録とともに、参加者全員に通知を行いました。

体験プログラムは、7月から始まり、計5回のプログラムが実施される予定です。



今回は1日だけとなりましたが、トライアル終了後に、スピードスケートの競技紹介が行われました。競技の映像が流れたり、実際のスケート靴を見せてもらう時間などがあり、参加者の皆さんは興味深そうに説明を聞いていました。これをきっかけに、今回合格となった人も、残念ながらそうでなかった人も、いろいろなスポーツへの挑戦をしてみたいと思います。新たな発見をしたり、隠れた才能を見つけたりすることができるかもしれません。

最後に、今年もトライアルの測定にご協力をいただいたT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの皆様、広島県小学生体育連盟の皆様、補助員としてお手伝いをいただいた広島市立大学、広島修道大学及び福山平成大学の学生の皆様に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 「スーパージュニア選手育成プログラム2024」第1回体験プログラム

7月13日(土)、広島県立総合体育館において、第1回体験プログラムを開催しました。約260名が応募したトライアルの選考を突破した46名のスーパージュニア選手が参加する体験プログラムの始まりです。

公益財団法人広島県スポーツ協会強化委員会の堂本ひさ美副委員長の挨拶で幕開けです。トライアルの第一関門を突破したスーパージュニア選手にさまざまなスポーツの体験を通して、たくさんチャレンジして、自分に合った、自分が続けていきたいと思うスポーツに出会ってほしいとお話がありました。

緊張の面持ちながら楽しみに胸を膨らませている選手たち、ファイナルトライアルまでの成長を楽しみにしているスタッフも希望に胸を膨らませています。第1回体験プログラムは、午前が「からだのバランストレーニング」、午後は「ハンドボール」です。



午前の「からだのバランストレーニング」は、一般社団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーが指導してくださいました。

最初に、講義形式で保護者の皆様と一緒に体の土台づくりの必要性について学びました。その中で、スポーツスキルを向上させるためには、「運動スキル」がとて大切であり、実践を含めながら、姿勢を整えるトレーニング・体幹の固定力を高めるトレーニングなど、様々なバランストレーニングの説明を受けました。

講義が終わると、次は実践でのトレーニングが始まります。まずは、ウォーミングアップとしてダッシュで壁までタッチしてかえってきたり、ジャンプをしたり、二人一組で手を繋いで走ったり色々な動作を加えながら身体を温めていきます。

次に、選手手帳にも入っている「四つばい:背骨曲げ伸ばし」、「四つばい:上半身ひねり」等々自宅でもできるトレーニングについて説明を受けながら、実際に体を動かし、体の使い方を学んでいきます。一見簡単そうに見えるトレーニングでも、体幹にとて効くトレーニングとなっています。

次に、跳び箱や平均台、マットなどを使ったジャンプのトレーニングを行いました。

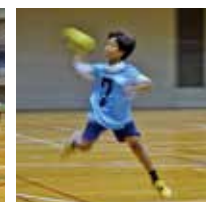
今回は家庭でもできるトレーニングも実践したので、自宅に帰っても身体づくりを続けてほしいと思います。



午後の「ハンドボール」は、安芸高田ワクナガハンドボールクラブの選手、広島県ハンドボール協会の皆さんに指導をしていただきました。

最初は準備運動を兼ねて、ジュニア選手と指導者の皆さん、ワクナガの選手と一緒に手つなぎ鬼ごっこ。準備運動の手つなぎ鬼ごっこの後は、まずはボールに慣れるためドリブル競争からスタートです。ワクナガの選手のお手本をみながら、しっかり真似をしてジュニア選手たちは、ボールに慣れていきます。

次に、グループごとにキャッチボールをして、ボールの大きさにも慣れていきます。キャッチボール・シュート練習では、最初のうちは上手に投げることができませんでしたが、ワクナガの選手たちにアドバイスをもらいながら練習を続けると、どんどん上達して鋭いボールを投げることができるようになりました。ゴールキーパーも体験して、勢いよく投げ込まれるボールを怖さに負けず、一生懸命はじき返していきます。



そして、最後はお待ちかねの試合です。ワクナガの選手にも試合に入ってもらいました。最初はボールに皆が集まってしまってもうまくパスが繋がらないチームもありましたが、チーム内で作戦会議を開いたり、ワクナガの選手にアドバイスをもらったりして、コートも広く使えるようになり、最後はナイスプレー・ナイスパス・ナイスシュートが続出していました。ジュニア選手たちの成長ぶりにワクナガの選手や県ハンドボール協会の皆さんも感激しておられました。



最後に、指導していただいたワクナガの選手からは、「スーパージュニアの選手たちとハンドボールができてとても楽しかったです。」と、ジュニア選手にとって嬉しいお言葉をいただきました。

また、今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員の櫻井由佳先生による「スポーツ活動中の水分摂取」の講話でした。スポーツ活動中の熱中症の予防について、どのような症状がでるのか、どのようなことを対策すべきなのか、具体的に説明をしていただきました。

参加した保護者はとても熱心に聞いておられ、講義後に直接ご質問をされる保護者もいらっしゃいました。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方やT&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方、広島修道大学の学生さんなど、多くの皆さんにご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。



# スポーツフェスタ開催



## スポーツフェスタ 児童の歓声こだま

トップアスリートと幼児・児童が触れ合う「スポーツフェスタ」が7月15日、広島市中区の広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）であり、終日、にぎやかな歓声に包まれました。県内に本拠を置くプロ、アマのトップスポーツチーム（トップス広島）所属選手たちと子どもたちがスポーツを通じて体験交流するイベントに600組の親子連れが参加。親子体操や競技チャレンジなどに汗を流しました。

県スポーツ協会、広島市スポーツ協会、トップス広島の三者が共催し、今年2月に続いた開催でした。県内の小学校などを通じ、親子での参加を呼び掛けたところ1,878組の応募があり、抽選で参加者が決まりました。午後1時からの開会式で県スポーツ協会の苅田知英会長は「まもなく始まるパリ五輪で、選手たちの活躍が見込まれます。五輪への可能性を秘めているのは子どもたち。進んで（スポーツに）チャレンジしてください」と、未来のアスリートに励ましのメッセージを贈りました。



フェスタ序盤は、未就学児と保護者による親子体操「アクティブ・チャイルド・プログラム」で始まりました。大アリーナのフロアいっぱい広がった親子は遊びやゲーム感覚で運動に取り組んでいました。日ごろの運動不足がたたった若いお父さんは額に汗を浮かべ、わが子と笑顔で体を動かす母親の姿も見られました。

児童によるスポーツ体験は午後2時から始まりました。トップス広島からはサンフレッチェ広島（サッカー）、JTサンダーズ広島（バレーボール）、イズミメイプルレッズ、安芸高田ワクナガハンドボールクラブ（ともにハンドボール）、広島ガス（バドミントン）、中国電力（陸上）、広島ドラゴンフライズ（バスケットボール）、ヴィクトワール広島（自転車）各チームの現役選手やOB、それに県ローイング協会役員や宮島工業高ボート部員、広島東洋カープのマスコット、スライリーもゲスト参加しました。広島経済大の学生団体「スポーツによる地域活性化プロジェクト」メンバーが運営に協力してくれました。



体験会の前半はバドミントン、ハンドボール、バスケットボール、自転車競技、ローイングの5競技でした。いち早く長い行列ができたのはバスケットボールで



した。地元チームのドラゴンフライズがBリーグを初制覇したばかりとあって、一番人気のようでした。上澤俊喜選手らの指導でフリースローに挑みました。東広島市三ツ城小4年范祐誠君は2年生の弟、康晟君と一緒にチャレンジ。10本のうち4本シュートを決めて笑顔が広がり「いつも練習しているけど、（シュートが）決まってうれしかった」と得意顔でした。男





女のハンドボールは選手のアドバイスをを受け、ゴール目がけてシュートを放ちました。GK役で参加したスライリーに大きな拍手がわいていました。

ローイング(ボート)は固定のエルゴマシン9台を使って模擬レースを行いました。200mを漕ぐ設定でタイムを計測します。挑戦後、大粒の汗を浮かべた広島市五日市観音西小5年、新井鈴乃さんは「初めてやってみた。きつかったけど、楽しかった」と話していました。自転車のコーナーには競技用ロードバイクが展示してありました。体験会の児童たちは前輪を固定した子供用ロードバイクにまたがり、懸命にペダルを踏み続けました。



広島ガスバドミントン部の女子選手が指導する4面のコートでは、シャトルを打ち返す光景が繰り返されました。ラケットがうまくさばけず、悪戦苦闘のシーンが続出しましたが、次第にシャトルをとらえる光景も。子どもたちと接した広島ガスの日野石杏選手は広島市大町小の出身で「私が初めてラケットを握ったのは小学1年でした。当時を思い出して懐かしかった」と笑顔を見せていました。



後半の競技はサッカー、バレーボール、陸上競技でした。サンフレッチェ広島からは森崎浩司アンバサダー、駒野友一スクールコーチらが、カラーコーンの間をすり抜けるドリブルやシュートを手伝ってくれました。バレーボールはJTサンダーズの5選手がパスやスパイクを教えてくれ、中国電力陸上競技部の選手、マネージャーたちは短距離に挑戦する子どもたちのダッシュ練習をアドバイスしていました。

体験イベントが終了した後は、トップアスリートたちの模範演技に移りました。バドミントンはダブルスの試合形式でラリーの応酬を展開しました。ハンドボールは男子選手が豪快なスカイプレーのシュートを披露。バレーボールも高さのある強烈なサーブやスパイクを演じてくれました。



サッカーは駒野コーチらが巧みなシュートを披露すれば、スライリーがGKを買って出る場面もあり場内は笑いに包まれました。バスケットボールの上澤選手はフリースローを確実に決められました。現役選手らの「すごい」シーンの連続に、終始児童たちの目が輝いていました。



イベントの最後はチームグッズなどが当たる抽選会でした。サイン入りのタオルやユニホームTシャツなどの商品がプレゼントされ、「ありがとうございました」のあいさつでイベントは幕を閉じました。

さあ、ともに  
未来へ!

ラグビー部
陸上競技部
女子卓球部

中国電力はシンボルスポート部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社

<https://www.energia.co.jp/>

### 100年前のパリ五輪、若きジャンパー織田幹雄の苦悩と挑戦

「花の都」パリは2024年夏、3度目の五輪を迎えた。近代五輪復活を提唱したクーベルタンの母国フランスでの開催は1900年(第2回)、1924年(同8回)以来。ちょうど100年前となる第8回大会には広島県海田町出身の陸上跳躍選手、織田幹雄が初出場した。19歳の青年は三段跳びで日本陸上陣唯一の6位入賞をもたらし、「世界のODA」へ第一歩を記した。

織田の陸上人生は県立広島一中(現広島国泰寺高校)3年の冬、広島師範学校(現広島大学)での陸上講習会への参加から始まる。一中サッカー部員であったが、体育教師の勧めで受講した。年末の5日間、午前は講義、午後実技が組まれ、夏のアントワープ(ベルギー)五輪陸上代表の野口源三郎がみっちりとした。感銘を受けた織田は内容をノートに書き込んだ。競技場の構造から世界記録に至るまで克明に記入、講義の新聞記事も張り付けた。表紙に力強く大書した「オリムピック」の6文字に、15歳の中学生の壮大な気概が伝わる。

野口の講義からわずか4年目、少年は五輪代表の夢をつかみ取った。講習会の翌年、広島一中に徒歩(陸上)部を創設し、5年生の夏には初の遠征で全国優勝を果たし、秋には走り高跳びで日本記録を上回る1m73をマーク。中学卒業の1923年5月、大阪開催の第6回極東競技大会で走り幅跳び、三段跳びの2種目を制して跳躍トップ選手に君臨していた。



第8回パリ五輪での織田のジャンプ(大日本体協「大会報告書」)

パリ五輪の日本陸上陣は8人、織田は最年少ながら走り高跳び、走り幅跳び、三段跳びの3種目に挑んだ。走り高跳びと走り幅跳びは予選で落ちた。37人参加の三段跳びは予選を14m19で通過、決勝1回目に14m35を跳んだ。日本新記録であったが、かかとを痛めて以後のジャンプは伸びを欠いた。決勝進出の6人中6位ながら五輪挑戦3度目の日本陸上界にとって、初の入賞者となった。

五輪コーチだった野口は大会後の著書「オリムピアの印象」(目黒書店)で、織田の跳躍を「外国勢は体格に大きく優れ、織田選手がもう少しステップを広げることができたら」と悔やんだ。しかし「今後の修練によっては将来、国際競技会で優勝することができよう」と大きな期待を寄せた。

野口の予感4年後のアムステルダム五輪、三段跳び金メダルとなって結実する。だが、初のパリ五輪では織田の苦悩が続いていた。

広島一中の卒業時、織田の進路は未定だった。東京高等師範学校(現筑波大学)進学を希望したが、極東大会1次予選中の11月に受験手続きは終わり、受験の機会を失った。一中同級生94人のうち一高、三高など旧制高校に21人、高等専門学校に19人、海軍兵学校3人など半数以上がすでに上級学校進学を決めていた。5月初めによく合格したのは広島高師併設の第二臨時教員養成所英語科であった。

中学生や女学生急増に対応した2年制の教員養成学校である。

とはいえ、練習と競技会に明け暮れるトップ選手の身に、学業と陸上競技の両立は困難であった。1年生の11月、関西学生大会で孤軍奮闘して個人優勝し、広島高師を初の総合3位に導いたものの、学内の反応は冷ややかで優勝旗は見向きもされなかった。次第に登校の足は遠のき、高師グラウンドでの孤独な練習が続いた。五輪期間中も、身の振り方に悩む夜が続いたという。

パリ五輪出場を報じた地元紙、中国新聞は織田の事情に配慮して所属を「旧広島高師」とし「先日まで広島高師に在学していた」と報じた。大日本体育協会(当時)大会報告書の選手団名簿の所属は「広島一中出」だった。落胆し、通学先を声高に名乗れぬもどかしさがうかがえる。

パリで奮戦しているころ、広島の実家では早大関係者が奨学生での受け入れを打診、父親が応諾していた。帰国後、受験勉強を再開した織田は翌年3月、早大高等学院(予科)に進学した。東京での新たなキャンパスライフを得て、再び世界のフィールドへ挑戦する決意を固めたのだった。(敬称略)

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



15歳の織田が書き綴ったノート「オリムピック」(海田町織田幹雄記念館所蔵)

五輪マ  
種ラ  
競ソ  
技躍ン  
  
上織三  
田田油  
精幹強  
二雄次  
一(早大)在  
年京中実  
生学専為  
徒専世一専

パリ五輪選手名簿の所属は「広島一中出」(同書)

## 未来を、 こうしよう!

私たちは、描いているビジョンがあります  
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。  
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していけるよう。  
これからも時代のニーズに合わせて進化し続けながら、  
みなさまとともに歩んでいきます。

屋内電気工事

情報通信工事

送変電地中線工事

エネルギー関連工事

空調管工事

配電線工事

リニューアル工事

環境関連工事

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号  
www.chudenko.co.jp